

2013年夏季 日本の大学生以上対象
中東体験学習プログラムのご案内



Summer Study Program for Japanese Students

“Israel-Palestine / The Current Reality”



20名様まで授業料全額控除の奨学金制度有



〈概要〉

ガリリ・インスティテュートは、イスラエル北部に位置する国際マネジメント研修機関です。1987年の設立以来、専門性向上や能力開発のためのプログラムを160ヶ国以上もの開発途上・先進国の上級官吏や専門家等に提供しており、現在までに1万名以上もの参加者が当機関の国際プログラムを受講するに至っています。ガリリ・インスティテュートでは2009年以来、日本人学部生・院生（社会人も参加可）向けの中東学習プログラムを実施してきており、今年で4度目となる本プログラムは、世界の諸問題の縮図とも言える、当地イスラエル・パレスチナ問題を、宗教及び政治、また社会的な側面より検証する機会を提供いたします。また本年プログラムからは新規内容として、今まさに「国家建設」の課程にあるパレスチナ占領地域における開発問題についても考察する機会を盛込んでおります。

日時：2013年8月20日（火）～31日（土）

場所：ガリリ・インスティテュート、スタディ・センター（イスラエル国、キブツ・ミズラ）

費用：授業料1,200ドル 現地費用2200ドル（後の項目に詳述）

※授業料は全額免除となる奨学金制度がありますので是非ご利用下さい

内容：〈講義例〉

- ・ イスラエルと中東－過去・現在そして未来－
- ・ イスラエル社会構造の考察
- ・ 1948年戦争とその帰結 「独立」及び「惨事」
- ・ イスラム教概説
- ・ パレスチナ内部闘争 －ハマスとファタハー
- ・ イスラエル国内、ユダヤ・アラブ人の共存の現状
- ・ 和平プロセス：課題、可能性、未来への展望

〈スタディツアー〉

- ・ パルチザン・ホロコースト博物館
- ・ ガリラヤ湖とナザレ、シリア・レバノン国境線
- ・ エルサレムと近郊の占領地域・分離壁視察
- ・ マサダ溪谷、死海での浮遊体験
- ・ ユダヤ・アラブ人共存の村、ベドウィン集落
- ・ パレスチナ自治政府系機関の訪問
- ・ パレスチナ一般家庭への訪問
- ・ パレスチナ開発支援機関との協議
- ・ パレスチナ地域開発現場（地方都市・村落）の視察

※当機構に関する更なる詳細は下記をご参照下さい

英語版ホームページ：<http://www.galilcol.ac.il/>

日本語版ホームページ：<http://galilcol-japanese.webs.com/>

ご質問はこちらから tmizutani@galilcol.ac.il

P.O. Box 208, Nahalal 10600, Israel Email: info@galilcol.ac.il
Tel: 972-4-642 8854 Fax: (972)-4-651-4811

日本人学生向け夏季中東学習プログラムとは

Middle East Studies for Japanese University Students



グローバル意識を養う

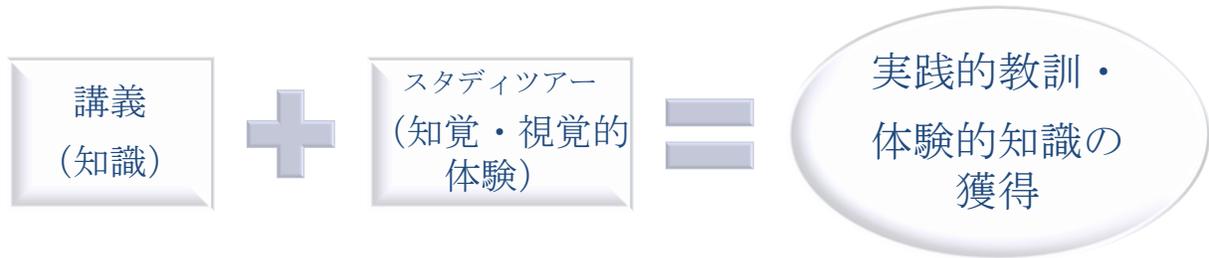
ガリリインスティテュートでは、2009年より日本人学部生・院生向けの中東学習プログラムを提供してきています。本プログラムの目的は、中東問題においてもとりわけ国際的インパクトの強い「イスラエル・パレスチナ問題」に焦点をあて、様々な視点から右を考察することにより、各参加者が国際諸問題の複雑さに対する知見を深め、ひいては**問題解決のための独自の視点を培う**ことにあります。一つの立場における現実、別の立場では全く受け入れ難い虚実であるかもしれません。それがまさに当地の性質と言えます。本プログラム12日間の行程においては、それぞれの当事者による「ナラティブ」を体験頂き、それらを包括的に把握するためのバランス感覚を構築して頂くことを支援いたします。

プログラムの全行程は英語を使用いたします。予定されている講義及び現地視察等是对話的且つインタラクティブな雰囲気の中で実施されるところ、各参加者による積極的な参加姿勢は大歓迎です。将来的にグローバルな舞台での活躍を目指す学生の皆様にとり、本プログラムは実務レベルでのコミュニケーション能力を高める良い機会ともなるでしょう。

当機構特有の”体験型学習アプローチ”

当機構が行うプログラムでは全て、「講義」と「スタディツアー」から成る”体験型学習アプローチ”を行っており、**知識と体験の両側面から学ぶ**ことで、より実践的な教訓及び体験的な知識を獲得することを目指しております。本プログラムの講義においては当地の著名な大学教授や第一線にて活動する関係者を招聘しており、それらを経験として視覚・知覚的に把握するための現地視察を実施いたします。特に、視察プログラムにおいては、イスラエル側の戦略・政治的地域や主要観光資源の視察、またパレスチナ側では政治/経済の中心部や軍事占領の負の影響が甚だしい村落地地域、訪問組織等ではパレスチナの「国造り」の中心的役割を担う政府系組織や、

当地の開発に従事する国際機関等を予定しており、通常の個人旅行ではアクセスの困難な場所や関係者との接触の機会を多く盛込んでおります。



開発におけるバランス感覚

混迷するイスラエル・パレスチナ問題。これだけ世界の関心が集まりながら、解決の兆しは一向に見えません。国際社会の一員として我々日本人が培うべき感覚とは、当事者の何れかが国際的に孤立しないための、バランス感覚に基づく理解力かと思います。本プログラムでは、第一に、双方のおかれた状況を幅広い問題意識を通して検証し、直に当事者との対話を行うことで、実質的な理解力を培うことを目指します。加えて、弱者（パレスチナ）への国際社会による支援、及び「介入（Intervention）」の事例を観察し、我が国を含む国際社会が行う開発支援に関する理解を深めます。

カリキュラム詳細（英語）

- Israel & the Middle East: Past, Present & Future
- Israeli Society: Sociological Structure, Trends and Prospects
- The War of 1948 and its consequences. Independence/Catastrophe (Naqba)
- A Brief Introduction to Elections/Democracy in Israel: Political Parties and Security Agenda
- Introduction to the Islam
- Israeli-Palestinian conflict; Implication on National Security, 1967 -2009
- The new Jews; Jewish identity in Israel.
- An internal Palestinian struggle; Fatah vs Hamas
- Co-existence between Arabs and Jews in Israel
- The future of the Middle East

スタディツアー詳細 (英語)

- Kibbutz Lohamei Haghetaot; Partisan, Ghetto fighters, and Holocaust museum
- Acco, the old city
- Nazareth, Sea of Galilee, Golan heights, and Isarel' s northern border with Lebanon/Syria
- Bedouin tent communities in Israel
- Palestinian Authority institutions including central and local government
- International Aid and development agencies including UN
- Palestinian local NGO
- Palestinian family home

※上記内容はあくまで現時点での予定であり、諸条件により変更となることがございます。

参加者の声

2011年参加 早稲田大学法学部

嶋田 康平 Yohei Shimada -日本人に何ができるか-

何ができるかを考える前提である知識が、圧倒的に不足している。日本人はこの問題に無知だ。一個人であれ、一国家であれ、干渉するのであれば、もっとイスラエルとパレスチナという二つの社会を知らなければいけない。そこに生きる人たちと話さなければならない。どんな人がいるのか、どんな考え方なのか、どんな日常なのか・・・。知ること、話すこと。すべてはそこから始まる。日本人のほとんどはイスラエルに行ったことはない。そんな日本社会で、自分たちの役割は何なのだろうか。イスラエルに行った人間にしかできないことを見つけ出したい。

2011年参加北海道大学公共政策大学院

凌 秦君 Rin Shi-Kun -単なる学習ではなく『民間外交』という重要な役割であった-

言葉は通じないかもしれないが、無邪気な彼たちの表情・行動から日本国民への感謝の気持ちがよく読める。われわれは、急に、学校の人気者になれるのが予想外であった。自らの目で日本ODAの実績を確かめた上で、改めて我が国の誇りを実感した。ついに、今回の研修のクライマックスを迎えた。この日から、私は、今回の現地入りが、もはや単なる「研修」を目的とするのではなく、日本の「民間外交」という重要な役目をも担うことを自覚した。

2011年参加 麗澤大学外国語学部

浅田 真澄 Asada Masumi -良い意味で予想と異なる現実に驚きました-

イスラエル・パレスチナは世間では「危ない国」扱いだけれど、実際に行ってみたところ、全く危険性は感じませんでした。観光客扱いされていたからかもしれませんが、挨拶をしてくれたり、「どこから来たの？」と声をかけてくれました。死海に行った時も、現地の方が声をかけてくれ、フレンドリーな人が多いという印象でした。イスラエルとパレスチナを行き来する検問所では、銃を持った兵士がいてちょっと緊張しましたが、それ以外には不安を感じたことはありませんでした。多くの方が、メディアの情報を通じてイメージを持ちがちですが、実際に行ってみるとそのイメージとは違ってギャップを多く感じました。

過去の参加者出身大学・組織一覧

愛知県立大学

金沢大学

関西学院大学

慶応大学

神戸大学大学院国際協力研究科

国際協力機構（JICA）

国際基督教大学

静岡大学

上智大学

東京大学

日本・イスラエル・パレスチナ学生会議

防衛省防衛研究所

北海道大学

立命館大学

立命館アジア太平洋大学

麗澤大学

早稲田大

その他情報等

詳細に関しましては以下の連絡先をご覧ください。

またご質問等ございましたら、お気軽に担当者までご連絡頂ければ幸いです。

英語版ホームページ：<http://www.galilcol.ac.il/>

日本語版新ホームページ：<http://galilcol-japanese.webs.com/>

プログラム担当者：tmizutani@galilcol.ac.il

担当：水谷 徹哉（Tetsuya MIZUTANI）

電話番号；+972 4 6428888/29 直通

ガリリ・インスティテュートについて

Galilee International Management Institute



ガリリ・インスティテュートとは

ガリリ・インスティテュートは、イスラエル北部に位置する国際マネジメント研修機関です。専門性向上や能力開発支援のための研修を 160 カ国以上もの開発途上国、先進国のリーダーや専門家に提供しています。世界でも有数のマネジメント機関として知られており、現在までに 1 万人以上もの上級管理者や専門家、研究者が当機関の国際プログラムを受講しています。

当機関では、定例開催のプログラムに加え、世界各国の政府機関や国際組織の要望に沿って、テーラーメイドプログラムもご用意しております。全てのプログラムは英語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、アラビア語、その他ご要望に沿っていくつかの言語で開催しております。

ミッション・ステートメント

ガリリ・インスティテュートのミッションステートメントは、教育や能力開発支援を通して、先進国と開発途上国の格差を埋めることです。私たちは、グローバル化の時代において、教育の力とアイデアの共有こそが、社会的にも経済的にも人々をつなぐ鍵であると信じています。そのため、グローバルとローカル双方における協力関係をを促進していきます。

また私たちは、イスラエル - パレスチナ間及び、他の中東地域のリーダーをつなぐ架け橋となるプログラムも推進しています。中東地域全体の平和構築は政府による話し合いのみならず、草の根レベルの人と人との信頼構築が重要であると信じているためです。

住所

P.O Box 208, Nahalal 10600, Israel

ガリリ・インスティテュートはイスラエル北東部のナハラルに位置します。近くにはキリストが教えを説いたと言われるナザレやガリラヤ湖、イスラエル第三の都市ハイファが連ねます。

事業内容

専門性向上や能力開発支援プログラムを世界各国の専門家や実務者に提供しています。参加者の多くは各分野の上級管理者や専門家、世界各国からの学部生・院生等であり、今までに1万人以上もの方々にプログラムを提供しています。主な活動分野は、当イスラエル国が比較優位性を有する、灌漑農業やアグロビジネス、イノベーション、環境エネルギー、戦略・安全保障、中東研究など多岐に渡ります。



申し込み方法と金額について

本プログラムにご参加頂くにあたり、いくつか記入頂く書類がございます。いずれも順を追って記載してありますので下記をご参考にして頂ければ幸いです。また、今回の夏季中東学習プログラムでは参加者 20 名様まで「授業料全額免除（1200 ドル）」の奨学金を提供させて頂いていますので、是非ご利用下さい。参加申込みの手順は以下の通りとなります。

申請書類

記入頂く資料は下記の 4 点となります。

1. Registration Form
2. Sponsor's Guarantee of Payment
3. Visa Application Form
4. パスポートのコピー（写真の載っているページ）

STEP 1

担当者（当組織；水谷）へメールをし 1. Registration Form 2. Sponsor's Guarantee of Payment 3. Visa Application Form 、これら 3 点の記入事例を入手。

STEP 2

パスポートの写真が載っているページをスキャン、保存。

STEP 3

入手のフォーム 3 点に記入し、パスポートのコピーと併せて担当者へメールにて送付。

STEP 4

10 日以内に当組織の送金担当（Amira Harris）より連絡が参ります。送金の仕方や金額、期限を記載した資料を当方より送付しますので、右に沿って送金頂きます。

STEP 5

当方指定口座にて振込みが確認された後に完了。

* 尚、これら記入事項には個人情報が含まれますが、本情報はあくまで本プログラムの円滑実施（空港・入管のスムーズな通過等）や、講義内容の適正化等のために参考にさせて頂くのが目的であり、外部への共有等は一切致しません。これら情報は当組織の責任において、厳格且つ適切に管理いたしますと申し添えます。

送付金額に関して

1. 現地費用 ; 2,200 米ドル 、若しくは 2,500 米ドル

本費用は当地にて生じる宿泊や食事代等の経費です。上記 2,200 ドルはツインの部屋の場合の値段（即ち他の参加者の方との相部屋になります）で、2,500 ドルはシングル（即ち一人部屋）の値段です。

2. 授業料 ; 1,200 米ドル

本プログラムのコンテンツに係る経費です。これは申し込み 20 名様までは**奨学金**という形にて**免除**させて頂く予定です。何卒早期のお申し込みを宜しくお願いいたします。

3. 早割り制度 (Early-bird system)

本年 6 月 1 日までに申し込み頂いた（あくまで申し込みで送金ではございません）参加者の方には、上記現地費用より 200 ドルの割引をさせて頂きます。即ち、相部屋をご希望の方の価格は 2,000、一人部屋の場合には 2,300 ドルとなります。重ねて、早期のお申し込みを宜しくお願いいたします。